

# 会報

No. 42

平成9(97)年3月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9

京都府立図書館内

TEL(075)771-0069



大昔の「図書館」は、そこそこ  
でお話ししようとする  
大昔の「図書館」は、  
それこそ大昔

今から一万八〇〇〇年も前の、後期  
旧石器時代のマグダレニアン文化の  
極く初期のものです。

その頃、極く簡単な点と線で表わ  
した暗号のような印はありましたが、  
もちろん字と呼ばれるようなものは  
ありません。自然の有様や人びとの  
思想は、すべて絵や彫刻で表現され  
て記録されました。そのような絵で  
今まで残っているものは、長い間人  
の目に触れることのなかった深い洞  
窟の奥の壁に画かれたものです。

私が、このような洞窟のことをこ  
こで敢えて「図書館」と呼ぶのは、  
現代の図書館の様々な姿も、ずっと  
遡れば、すべて原始の時代からの人  
間の本性ともいえるものに、その源  
を発していると思うからです。

もう四十年も前のことになります  
が、フランスに滞在していた時、フ  
ランスの西、ヴェーゼル川の上流が  
ボルドーの方へ流れている谷あいに  
あるラスコーの洞窟を訪ねました。  
その洞窟は、その十年ほど前に、近

くのモンティニアック村の少年たち  
が、ふとしたことで発見したもので、  
私が訪ねた時は、緑濃い林の中のが  
けに小さな入口がありました。足下  
の水の流れに気をつけながら洞穴を  
抜けると、急に広がった洞窟に達し  
ました。

照明に照らし出された壁一面に、  
動物たちの活き活きとした姿が画か  
れています。迫力のある野牛の群れ、  
可愛く飛び跳ねている子馬たち、堂々  
と立っている巨大な黒牛、赤毛の鹿  
の列、長いたてがみをなびかせて走  
る馬、長く伸びた角をした山羊、す  
べて、洞窟の壁の自然の曲面や凹凸  
を巧みに使って立体的に躍動してい  
ます。

そして、それらの絵は、それぞれ、  
鮮やかな色彩をもつて輝いているの  
です。あとで気づいたのですが、そ  
の洞窟の中には、色々の粘土や岩石  
の粉末を混ぜて顔料を調製する石器  
時代の工房がありました。百色以上  
の色が使われていることがあります。  
その洞窟の中に立ったときの感激  
はとても言葉で言い表わすことが出  
来ません。何か偉大な力に打たれた  
とでも表現されるような衝撃に我を  
忘れて立ちつくしていました。

さらに奥に進むと、深い穴を降り  
て小さな洞穴に行きました。そこ  
は、空気も冷え冷えとして、それ  
までは全く違った神聖な雰囲気に  
満されています。壁には深手を負つ  
て内臓がはみ出している野牛が画か  
れています。その横に線画で倒れて  
いる人間の姿が画かれていました。  
それまで、数々の動物の絵がありま  
したが、人間の姿が画かれているの  
は、ここだけでした。そして、その  
側に、靈魂の象徴とも思われる鳥が  
すくっと立っていました。

ここは、祈りの場であったのでは  
ないかと直感しました。

洞窟の中には、石でつくったランプ  
の形をしたランプがありました。  
そのいくつかには、燃え残ったまま  
の炭化した動物の油脂がまだこびり  
ついていました。暗黒の深い洞窟の  
中で、このようないきをたよりに、  
何百年も何千年も、代々書きついで  
來たのです。

図書館の原点は、このような人類  
の原始の時代から、知を書き残し、  
伝えついで、自然の大いさ、生命の  
尊さを未来に語りかけようとして來  
た人間の本性にあると私は確信しま  
す。

現代における多様な表現方法や記  
録集積の技術によって、図書館のあ  
り方は多様ですが、図書館の真髓は  
人類の歴史を一貫して流れてきた、  
知を愛す人間の本性にあるのでしょ  
う。

京都大学名誉教授  
前京都大学総長

西島安則

## 一泊研修



恒例の一泊研修が、二月六、七日にホテルセントノーム京都を会場として開催されました。『レフアレンスと図書館員の役割』をテーマに、京都橘女子大学教授武内隆恭氏の講演の後、二つの分散会で報告・討議がくりひろげられました。

## 「レフアレンスサービスも从なり」

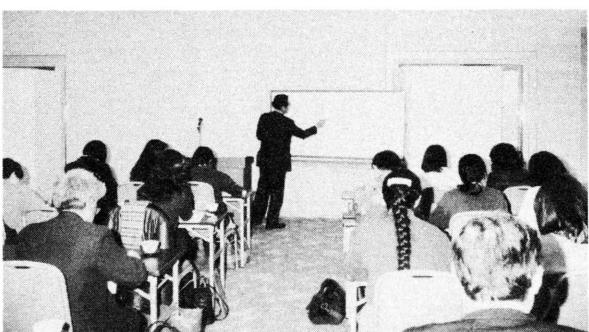
武内 隆恭 氏 講演概要

この四月に、司書講習科目が改正される。改正のねらいは、①現代社会の情報化に向けての対応②生涯学習社会にふさわしい、開かれた制度とするである。

レフアレンスに関係しては、旧科目名「参考業務」「参考業務演習」が「情報サービス概説」「レフアレンスサービス演習」となる。

「情報サービス概説」では、図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レフアレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。「レフアレンスサービス演習」では、参考図書その他の情報源の利用や作成、質問の回答処理の演習を通して、実践的な能力の養成を図る。そして、資料の提供から情報化社会における情報の提供へと変化させることがねらいである。

さて、「参考業務」の名称と業務内容も、参考事務、相談事務、相談奉仕、参考奉仕、情報サービスと変化してきた。これから情報サービスの内容としては、



情報の交換、読者相談、利用者のニーズ・関心を先取りした情報の提供、遠距離通信による情報システムへの直接的アクセスができるようになるなどである。

今回の実務研修会では「レフアレンスと図書館員の役割」について勉強しました。まず、武内先生の講演「レフアレンスサービスも从なり」で、レフアレンスの原点である「人ととのつきあい方」に改めて気付かされ、信頼できる図書館、図書館員にならなければいけないと痛感しました。

平成八年度の京図連協の一泊研修は「レフアレンスと図書館員の役割」というテーマで開催された。日頃、レフアレンスの大変さを痛感しているので、興味を持って参加した。最初に武内隆恭氏の「レフアレンスも从なり」という講演を聴いた。資料の提供から情報の提供へとレフアレンスが変化している現状を踏まえながら、図書館職員に求められるものについて話をされた。

司書に求められる資質としては、技術的・才智的・正確性・専門的知識等々。技術的なことはもちろん大事であるが、むしろ快活さ、近づきやすい態度、礼儀正しさの方がより要求されるという話や、氏が仕事等で知りあつた人々のおかげで、レフアレンスなどに役立つた話など印象深かった。

用者と図書館員の人と人との心のふれあい、血の通うぬくもりの結びあいであると思う。

「レフアレンスサービスも从なり」である。担当職員の資質要件は、図書館資料に精通し、幅広い教養、時事問題、地域社会への関心をもつことである。

レフアレンスサービスの基本的なものに「聞き手の身になつたことばづかいを」がある。「目ことば」、「耳ことば」でことばの受取り違いには注意が必要である。

いずれにしても、担当職員は、サービス精神のある信頼される図書館員でありたい。

## 実務研修会に参加して

京都市醍醐図書館  
杉本 あかね

京都府立総合資料館  
持田 木乃美

平成八年度の京図連協の一泊研修は「レフアレンスと図書館員の役割」というテーマで開催された。日頃、レフアレンスの大変さを痛感しているので、興味を持って参加した。

最初に武内隆恭氏の「レフアレンスも从なり」という講演を聴いた。資料の提供から情報の提供へとレフアレンスが変化している現状を踏まえながら、図書館職員に求められるものについて話をされた。

司書に求められる資質としては、技術的・才智的・正確性・専門的知識等々。技術的なことはもちろん大事であるが、むしろ快活さ、近づきやすい態度、礼儀正しさの方がより要求されるとい

う話や、氏が仕事等で知りあつた人々のおかげで、レフアレンスなどに役立つた話など印象深かった。

レフアレンスの難しさやその具体例などが飛び交い、また他館の先輩方の意見や考えを知る事が出来たので、まだまだ経験不足の私にとって大変勉強になりました。

どの館でも人手不足・資料不足な

## 京図連協・

講演のあとは二班に分かれ討議に入った。レファレンスの範囲や、誰が応対してもある程度均質のレファレンスを行うには、などの問題を話合つた。一人で対応しきれない場合は他の職員に応援してもらう、自館では対応しきれない場合は他の職員に応援してもらう、自館



意見の交換。助言者からは効率的では均質性のある方法として時間区切

り、すつかりブックトーキーになつていました。

京都府北部で開催されました「福知山市立図書館 西沢実千代

「ブックトーキー講習会」に私は初めて参加させて頂きました。ブックトーキーとは「あるテーマに従つて、何冊かの本を順序だてて紹介する」といふ予備知識しかなく、実際にどのようなことをするのか興味がありました。会場に入りますと、ブックリストが配られました。児童向け、低学年向け、高学年向け、とそれぞれのテーマに添つて書名が書かれています。余白には本に描かれている、さし絵も載っています。少し緊張ぎみでしたが、そのかわいいさし絵で気分も和みました。

講師の北畠博子先生の紹介と挨拶の後すぐ実演が始まりました。先生の「みなさんも年齢を下げて、幼稚園児から低学年、高学年」と、その年齢になつたつもりになつて聞いて下さい。」の言葉で会場内に笑いが溢れ、その勢いで一気にブックトークに入りました。

強弱のはつきりした語り口と、スムーズに運ばれる次の本への紹介、その本も先生が手に持つて、絵が私達に良く見えるよう、大きな動作で何度も回して見せて下さり、ふしぎなことに小さな本さえ、紙芝居のような大きさに見えるのです。とてもインパクトのある演出でした。

小道具を使つたり、クイズや遊びなどもあつたりと、一方的に先生が話すだけ、ということはありませんでした。私もいつの間にか童心に還り、すつかりブックトーキーになりました。

京都府北部で開催されました「福知山市立図書館 西沢実千代

的には聞き手に紹介した本を読む気にさせることです。その為には日頃から幅広く本を読んでおくことが大切ですね。失敗を恐れず一度気軽に挑戦してみようかなと思っています。



※ この研修の模様を収録したビデオテープが京図連協事務局(府立図書館内)にありますのでお問合せの上ご利用ください。

二月二十一日亀岡市立図書館において「これから図書館ネットワーク」をテーマに、高向洋祐館長が亀岡市図書館情報ネットワークシステムの現状について講演しました。

### 北部会場



三月六日綾部市図書館を会場に、京都科学読み物研究会会員北畠博子氏を講師として「科学よみものを中心としたブックトーキーの実践」と題して行われました。

京都府北部で開催されました「福知山市立図書館 西沢実千代

も違うブックトーキーという分野の目

識と、技術に基づいて、利用者の生涯学習を助けていく図書館に働く者

として、コンピュータは大変便利な道具だと思う。

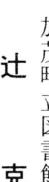
あまり機械に頼つていると専門職に頼つてしまふ。(言い訳のように聞こえるが……)

また、最近の財政難等、図書館を取り巻く情勢が大変厳しい中、限られた予算、人員、資料の中で、多種多様な利用者の声に応えていこうとすると、図書館規模の違いにもよるだろうが、単独の図書館では無理な場合が多く、相互協力が大きな役割をもつてくる。

図書館ネットワークシステムが相互協力の今後の新しい流れになるだろうが、それとも、中核となるセンターがあつてこそ、各図書館が単独で実現できるものではないし、情報はネットワークできても、資料は運ばなければならない等、課題は多いと思う。

新しい府立図書館に、図書館ネットワークシステムの中核として、また、生涯学習・情報の中核として期待するところが大きい。

### 南部会場



三月六日綾部市図書館を会場に、

京都科学読み物研究会会員北畠博子氏を講師として「科学よみものを中心としたブックトーキーの実践」と題して行われました。

京都府北部で開催されました「福知山市立図書館 西沢実千代

も違うブックトーキーという分野の目

識と、技術に基づいて、利用者の生涯学習を助けていく図書館に働く者

いていました。

世の中の情報化が、複雑かつ急速に進む中、地域の図書館が担う役割が重要になってきつつあるように思える。

きちんとした情報源についての知識と、技術に基づいて、利用者の生涯学習を助けていく図書館に働く者

いていました。

# 建 設 進 む 新 図 書 館

## (仮)宇治市西宇治図書館

### オープニングに向けて

今、宇治市では今年六月オープン予定の市内二つ目の分館、(仮)西宇治図書館の開設準備の大詰めを迎えているところです。

設置場所は、市内西部の人口集中地域で、周辺には学校等の施設もなく、早くから分館の建設が待ち望まれていた地域です。移動図書館での利用率も高く、今から開館後の盛況ぶりが楽しみでもあります。

建物は、地域福祉センターとの複合施設で、図書館はその三階部分に位置します。面積は、開架室・書庫・事務室・エレベーター等を含め、約五五〇m<sup>2</sup>になります。開架室の広さは、約四一〇m<sup>2</sup>で、大きく分けて、成人・児童の各コーナーおよびプラウジングコーナーを配置する予定です。開架図書の規模は約四万冊ですが、開館時は約三万冊でスタートします。

既設の二館とはオンラインで繋り、全館の資料検索や予約処理などが一體的に対応できます。又、利用者は三館と移動図書館で形成される図書館のサービスポイントのどこ

とする利用ができることで、

幅が大きく広がります。

現在、これらをふまえて三館での図書館サービス体制の確立が新たな課題となっています。又、将来を展望するなかで、コンピュータシステムの入れ替えが決定し、開館までの短期間での移行作業が始まっています。同時に、昨年より準備担当で進めてきた図書の購入・備品・サイン等の調整も最後の追いこみに入っています。

この様に、宇治市中央図書館では、六月のゴールをめざして、全体が一つになってフル回転という状態です。

地域の利用者からも、「楽しみにしています」との期待の声が次々と届き、嬉しさのなかにも、身の引き締まる思いです。

身近な書斎として、市民に親しまれる明るく魅力的な図書館となるよう、あらゆる角度から最後の仕上げを施したいと思っています。

上二階建、延べ床面積約三、四五m<sup>2</sup>で、うち図書館は地下一階の約七八六m<sup>2</sup>。蔵書数は十万冊（うち開架五万冊）。現在の図書館に較べ、蔵書数で二倍、床面積で約五倍の規模となります。

館内には、成人図書や新聞・雑誌、児童書などの開架コーナーなどのほかに、子供たちに紙芝居などを読み聞かせる「おはなしの部屋」も設けられます。

### マルチメディアの部屋を設置

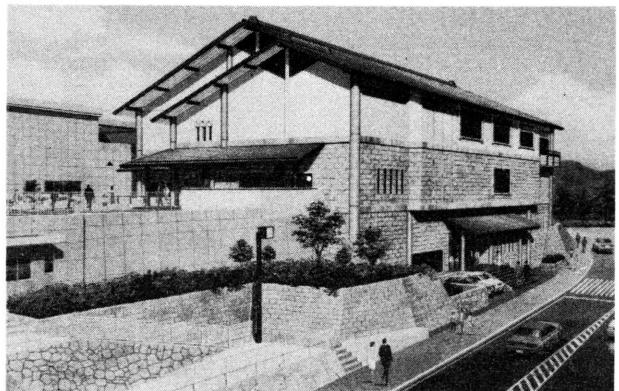
マルチメディア関連では、「マルチメディアライブラリー」の部屋を設け、CD-ROMなどの市販の電子図書をはじめ、歴史資料館で制作する「ふるさと学習教材」などがあ

## (仮)園部中央図書館

### 建設始まる

園部町では、今、マルチメディア

に対応したネットワーク型の新しい図書館を約三億四千万円をかけて歴史資料館との併設で建設中です。建物全体の規模は、地下一階、地



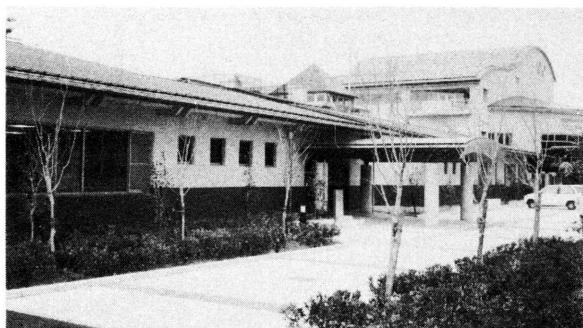
平成10年秋オープン予定の(仮)園部中央図書館。  
地上1・2階は歴史資料館となる。

**ネットワークで遠隔地からの利用も**  
新図書館の一番の特徴は、ネットワーク型ということです。図書館内のサーバーで管理される書誌情報は、A T V網を使って町内の小中学校にも提供され、離れた学校のパソコンから図書の検索・利用予約が可能になります。学校にない本は、ネットワークを通じて図書館に予約を入れ、別途の物流システムにより学校に配送することも考えています。

さらに、一般の家庭からもインターネットの環境で図書館にアクセスし、図書の検索・利用予約も行えるようになります。

また、平成十一年に開校予定の佛教大学園部キャンパスの図書館や建設画のある新府立図書館など外部の図書館とのネットワークも視野に入れた対応可能な図書館として整備する計画です。

新図書館のオープンは、平成十年秋の予定で、現在、急ピッチで工事が進められています。



山城町民にとって待望の文化の拠点、山城町総合文化センター「アスピアやましろ」が二月十八日オープンしました。建物全体は文化回廊の町山城にふさわしく、三十数面という大量の鏡が出土したことで全国的にも有名な初期の前方後円墳、椿井大塚山古墳をイメージしています。

真上から見ると円形のホール棟、それに続くパブリック棟と併設されたその一番南側の前方部分に位置するが町立図書館です。平屋建て床面積は八〇〇m<sup>2</sup>、館内には椿井大塚山古墳から出土した三角縁神獣鏡三十二面を展示した部屋もあり、全体に落ちていた雰囲気を漂わせていました。図書館の開設準備は、

山城町民にとって待望の文化の拠点、山城町総合文化センター「アスピアやましろ」が二月十八日オープンしました。建物全体は文化回廊の町山城にふさわしく、三十数面という大量の鏡が出土したことで全国的にも有名な初期の前方後円墳、椿井大塚山古墳をイメージしています。

## 新館紹介

### 山城町立図書館

のまつ  
くの白紙

状態から  
始め十ヶ  
月余りと  
だしさの  
いう慌た  
中、何と  
か間にあ  
わすこと  
ができま  
した。

二 ュ 一 ス



開館当  
初の資料  
構成は、  
図書約三

二、〇〇〇冊（内児童書一三、〇〇〇冊）、雑誌一〇〇誌、新聞七紙、ビデオ五〇〇本、紙芝居三〇〇タイトルで、今後数年で七〇、〇〇〇冊以上の蔵書数にして、自他共に山城町の文化の中核施設として、町民に親しまれるよう心掛けていきたいと思っています。なお、開館後一週間（五日間）の利用状況は、登録者一、五〇〇名、貸出件数一、三五七件、貸出冊数四、一五六冊で一日平均がそれぞれ三〇〇名、二七一件、八三一冊になります、人口九、三〇〇人の自治体としてはまずはまずの滑り出しといえます。

今後は、日常生活の中で気軽にご利用いただくよう、住民に密着した施設になるよう努力していくと共に、史跡文化の町らしく関係資料収集にも留意していきたいと考えています。

連絡協力車を休館中も運行して

## 公立図書館振興について

### 府立図書館長と理事とが懇談

- [要望書（府教育長あて）]
- 連絡協力車を休館中も運行して
- 府内市町村の図書館職員の資質向上を図るための研修を実施してください。



毎年行っている「公立図書館振興について（要望）」を、本年度も各市町村及び府あてに提出しました。府及び府教育委員会には、平成八年十一月二十八日付けで、府立図書館を通じて提出。また、平成九年一月二十一日には、府立図書館会議室で府立図書館長と理事との懇談会が開かれました。要望書及び懇談会で府立図書館長に対し出された要望は次のとおりです。

○ 「要望書（知事及び府教育長あて）」新府立図書館は、二十一世紀の京都府全域の図書資料・情報サービスの中核としてふさわしいものとし、府内図書館ネットワーク及び図書館相互協力の中核となるなど、市町村立図書館等への支援を一層強めてください。

○ 新府立図書館に関わることや将来に向けての問題など、明らかに出来ることはその都度早急に文書で知らせていただきたい。

○ 府立と市町村との連携を密にするため、ぜひ館長会議を開いていただきたい。

いただきたい。将来には週1回の運行にしていただきたい。

○ 市町村の財政事情は一層厳しく、休館中もリクエストを受けていただけ。高価な本はもちろんのこと、ポピュラーな本もリクエストに応えていただきたい。

○ 資料のデータ化に当たっては、市町村の実態を見極めてマークの選定を進めていただきたい。

○ 府内市町村とのネットワークが重視されているが、円滑に進めるため、府立の機種等が決まれば、出来るだけ早く市町村に公表していただきたい。

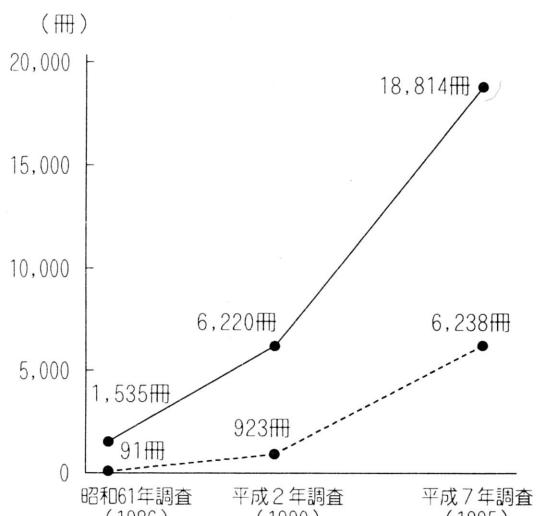
○ 新府立図書館に開わることや将来に向けての問題など、明らかに出来ることはその都度早急に文書で知らせていただきたい。

○ 府立と市町村との連携を密にするため、ぜひ館長会議を開いていただきたい。

## 相互協力実態調査 集計結果報告

### 相互貸借冊数の推移

実線は相互貸借冊数（全体）  
点線は市町村間の相互貸借冊数



とにより、各館の負担が増し、方法の改善を求める声や、府立図書館の資料費の増額を求める声が多く寄せられています。

### ◎研修研究委員会

毎度のことですが、委員任期の初年度は委員構成が遅れるため、研修の開催が遅くなります。加えて全国・近畿規模の大会・研修会があれば、それを優先することになるので尚更です。

相互通借全体は平成2年調査に比べて三・〇二倍に伸びており、府内の図書館サービスが活発になつていることを示しています。なかでも市町村相互の相互通借冊数は六・七五倍と飛躍的に伸び、相互通借全体の約三分の一を占めるまでになっています。これは平成6年度から実施したFAX版「WANTED」により、増えたものと言えます。

兵庫の奉仕部門研修会と重なり、結果的には二月の一泊研修がスタートでした。二月六、七日開催の「レフアレンスと図書館員の役割」二月二十一日

に行つた「これからの図書館ネットワーク」三月六日の「ブックトーク講習会」いずれも研修の成果があつたと思っています。

九年度は総会までに委員会を開いて「どの館のどの職員も、いつでも参加でき、いかは役に立つ内容の研修」を企画したいと思います。

次回の委員会は「会報四三号の編集と分担について」を内容にして行う予定です。

この一年、各専門委員会や会員の皆様には記事や写真の提供等にご協力いただきありがとうございました。平成九年度も広報委員一同、よりよい紙面づくりに努力しますのでよろしくお願い致します。

三月十三日（木）午後、総合資料館において相互協力実務担当者会議を開きました。前半は滋賀県志賀町立図書館長の卯滝清春さんに「相互協力における府県立図書館の役割」と題して、志賀町や県立図書館の先進的な話をお聞きしました。

後半は、今後の府立図書館の予定と市町村図書館サービスについて説明があり、その後の討議では、参加の各館から府立図書館及び、新府立図書館への要望が数多く寄せられました。

### 編集子

寒さの厳しい季節も過ぎ、ようやく春がやってきたようです。府内図書館も、山城町では新館オープン、宇治市・園部町では開館準備に奮闘中。また、京都市でも、この四月に醍醐中央図書館がオープンとか。次号でお伝えできそうです。

が実施当初に較べて著しく増えた反面、「WANTED」掲載冊数が実施当初に較べて著しく増えたこ

本年度第三回広報委員会を一月二十四日に久御山町立図書館で開催し、会報四二号を六ページだとしているところ及びその編集方針と記事分担を決